

平成 1 5 年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ニギス

学名 *Glossanodon semifasciatus*

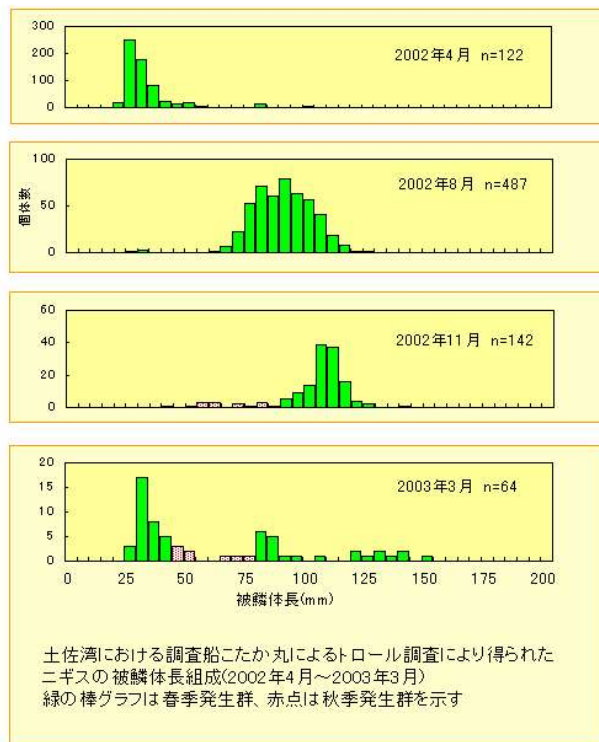
系群名 太平洋系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特徴

- 寿命： 5歳
- 成熟開始年齢： 2歳
- 産卵期・産卵場： 春季が主な産卵期だが、秋季にも産卵、水深250m前後の海底付近で産卵
- 索餌期・索餌場： 春～秋季（5～11月）、伊豆半島以西から九州太平洋沿岸の水深100～350mの海域、成長に伴い沿岸からより沖合の生息域に移動
- 食性： 幼魚期はコペポダなどを主に食べるが、成長するに伴いオキアミなどのより大型の浮遊性甲殻類を食べる
- 捕食者： 中・大型の底魚類

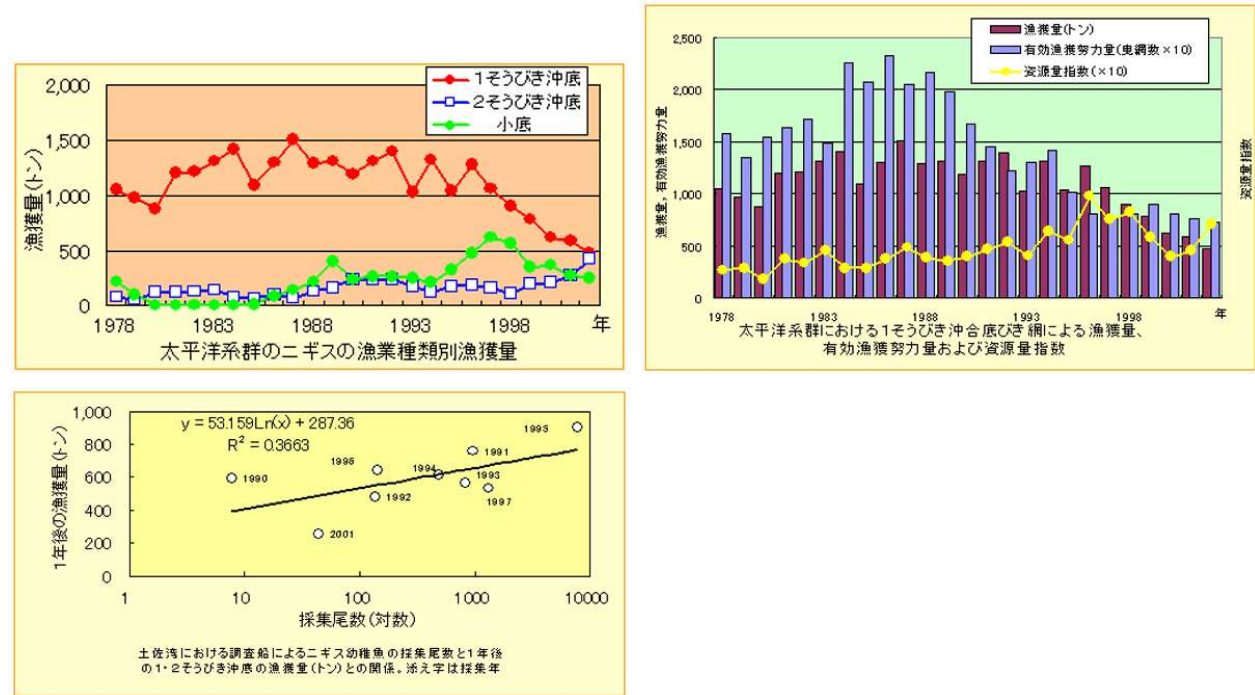


漁業の特徴

太平洋側では伊豆半島以西から九州太平洋側にかけて、水深200～250mの海底付近で、主に1そうびき沖合底びき網により漁獲される。その他、2そうびき沖合底びき網、小型底びき網によっても漁獲される。1そうびき沖合底びき網の着業隻数が漸減傾向にあり当該漁業種類による漁獲割合は減少傾向にあるのに対し、2そうびき沖合底びき網による漁獲割合が近年増大している。

漁獲の動向

漁獲量は1980年代後半から増加傾向となり1992年には1,892トンに達した。その後、やや減少したが1996年には1,936トンと過去23年間（1980～2002年）で最高の漁獲量となった。しかし、その後は減少に転じ、2002年には1,147トンと低水準、横ばい傾向となっている



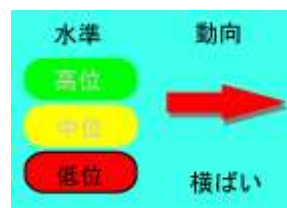
資源評価法

総漁獲量と本種を主要な漁獲対象とする1そうびき沖合底びき網の資源動向の指標及び調査船による幼稚魚調査の結果をもとに資源評価を行った。1そうびき沖合底びき網の主要な漁場である土佐沖と熊野灘での漁獲量、有効漁獲努力量及び資源量指数の経年的変化傾向から資源の状態を評価するとともに、土佐湾における調査船調査による6～7月の幼稚魚の分布量指数と翌年の土佐湾における1・2そうびき沖合底びき網による漁獲量の相関関係について調べた。

資源状態

土佐沖における1そうびき沖合底びき網の資源量指数は1980年代半ばをピークに減少傾向にあり、1990年代半ばの漁獲量の増大は、努力量の過大な投下によるものと考えられ、1997年以降の漁獲量の急減は土佐沖の資源を壊滅的な状況に追い込んだためと考えられる。

一方、熊野灘における1そうびき沖合底びき網の資源量指数は1980年代以降ほぼ横ばい状態で、乱獲の兆候はみられない。また、土佐湾での幼稚魚の分布量指数と1年後の沖合底びき網の漁獲量との間に対数回帰式で示される相関が認められ、幼稚魚調査から翌年の漁獲量を予測する手段として利用できる可能性が示唆された。



管理方策

主力漁業である1そうびき沖合底びき網の漁獲量が依然減少傾向にあることから、漁獲を抑制して資源の減少傾向に歯止めをかけ、増加に転じさせることを目標とする。現在、利用できる情報は漁獲量だけであることから減少傾向にあった過去3年間（2000～2002年）の平均漁獲量の8割を2004年のABClimitとする。ABCtargetは、ABClimitに安全率0.8を乗じた。

	2004年ABC	管理基準	F 値	漁獲割合
A B Climit	921トン	0.8Cave3-yr	-	-
A B Ctarget	736トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 1そうびき沖合底びき網の漁獲量は1998年以降減少傾向となり、2002年には過去最低 2002年の総漁獲量も過去23年間（1980～2002年）で3番目に低い値

資源管理方策のまとめ

- 漁獲を抑制して資源の減少傾向に歯止めをかけ、増加傾向に転じさせる
- 資源量の推定のため年齢・成長関係を明らかにするとともに、漁獲物の体長組成等の蓄積を図りコホート解析の導入を目指す
- 資源予測については、幼稚魚の分布量指数等のデータを蓄積して、翌年の資源量予測の手法を開発する

資源評価は毎年更新されます。